

高松市が進める地域みずからのまちづくりの主体であり、市の協働のパートナーとして自治基本条例で位置づけられている地域コミュニティ協議会は、その地域に住む人や地域各種団体等を構成員とする組織であるが、その中心は旧来の自治会である。この自治会の加入率が低下することは、とりもなおさず地域コミュニティ協議会本体の弱体化につながるとの危機感の下、高松市とも連携し、自治会加入促進について取り組んできたが、昭和63年には89%であった本市の自治会加入率は、平成29年には59%となり、加入率の低下に歯止めがかからず、50パーセントを割り込むことも時間の問題と想定されており、喫緊の課題として抜本的な見直しを行う必要がある。

高松市が平成２９年度に実施した市民意識調査結果分析や他都市の先進的事例等を参考に、まずは自治会の在り方・役割について見直しを行い、その内容を踏まえた上で、新たな自治会再生・加入促進施策の検討を行う。

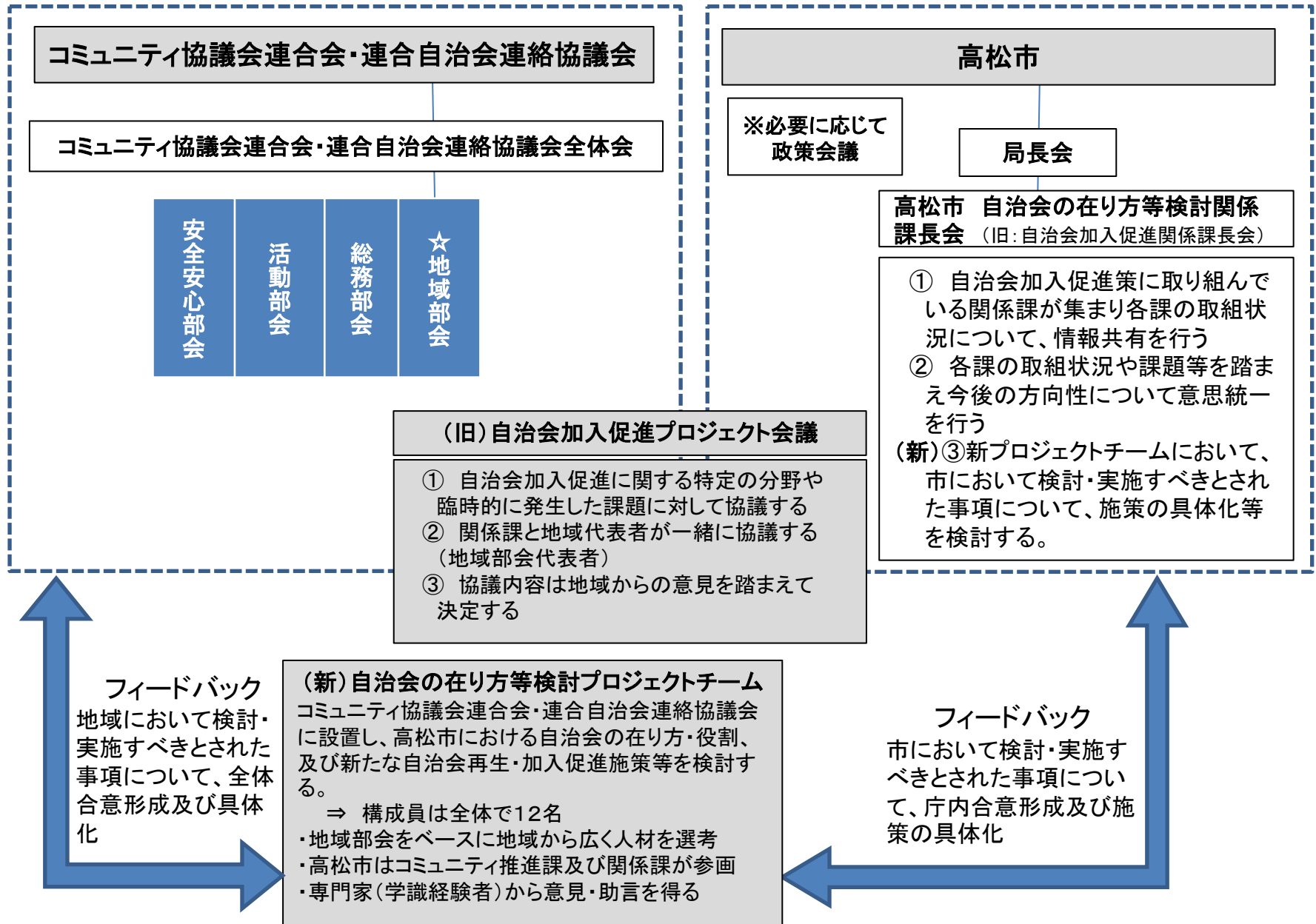
自治会の在り方・役割等を見直し、自治会そのものの明確なメリットを提示するなどにより、「未加入者が自治会に入りたいと思える自治会」「加入者にとっても満足感の高い自治会」になることを促し、その結果、加入率が上がる施策としたい。

高松市における自治会の在り方・役割を抜本的に見直すため、高松市の参画、協力を得て、高松市コミュニティ協議会連合会・高松市連合自治会連絡協議会内に、新たに「自治会の在り方等検討プロジェクトチーム」を設置し、実効性のある、新たな自治会再生・加入促進施策を検討する。

自治会の在り方等検討プロジェクトチーム

検討事項	・ 住民自治組織としての自治会の在り方 ・ 地域コミュニティ協議会との関係性、役割分担 ・ 行政の役割、地域への支援の在り方
構成員 (12名)	・ 高松市コミュニティ協議会連合会・連合自治会連絡協議会 ・ 市関係各課
開催時期 (予定)	第1回 平成30年 6月25日(月) 13:30～ 第2回 平成30年 7月24日(火) 13:30～ 第3回 平成30年 8月30日(木) 13:30～ 第4回 平成30年10月 5日(金) 9:00～ (中間報告予定) 第5回 平成30年12月下旬 ※以降、必要に応じて継続

新プロジェクトチーム(タスクフォース＝特任研究班)



平成29年度「自治会活動に関するアンケート調査」の結果について

1 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

高松市では、「コミュニティの再生」をまちづくりの最重要課題の一つとして位置づけ、地域コミュニティ協議会を中心としたまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの軸となる自治会への加入促進に取り組んでいる。しかし、近年自治会加入率の低下に歯止めがかからず、この30年で約30パーセント減少しており、今後における本市の自治会加入促進施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査設計

- ① 調査地域 高松市全域
- ② 調査対象 満18歳以上の市民(世帯主)
- ③ 標本数 2,000
- ④ 抽出方法 無作為抽出法
- ⑤ 調査法 郵送法
- ⑥ 調査時期 平成29年9月19日～10月6日

(3) 回収率

41.9%(有効回収数:837)

2 アンケート調査結果

(1) 自治会加入・自治会活動の現状

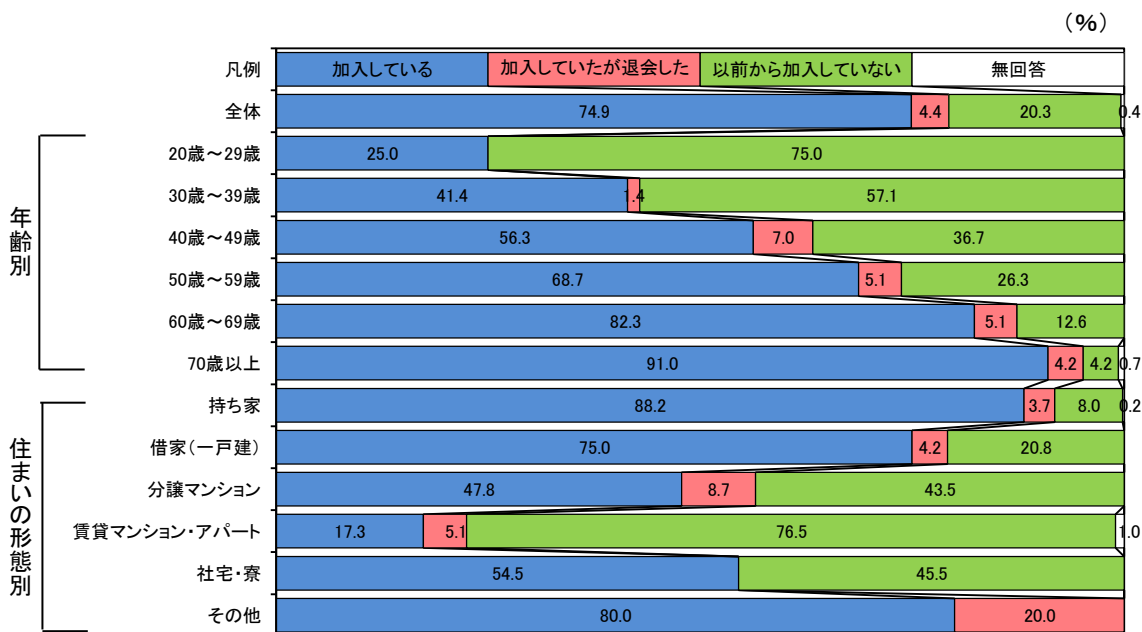
① 自治会加入の有無

自治会加入率は、『20歳～29歳』(25.0%)が最も低く、年齢が上がるにつれて加入している割合が高くなっている。

年代別に加入している割合と加入していない割合を比較すると、30代以下では、加入していない割合の方が高く、40代以上で逆転し、加入している割合の方が高くなる。

また、住まいの形態別では、『持ち家』(88.2%)が最も高く、最も低いのは『賃貸マンション・アパート』(17.3%)、次いで『分譲マンション』(47.8%)である。

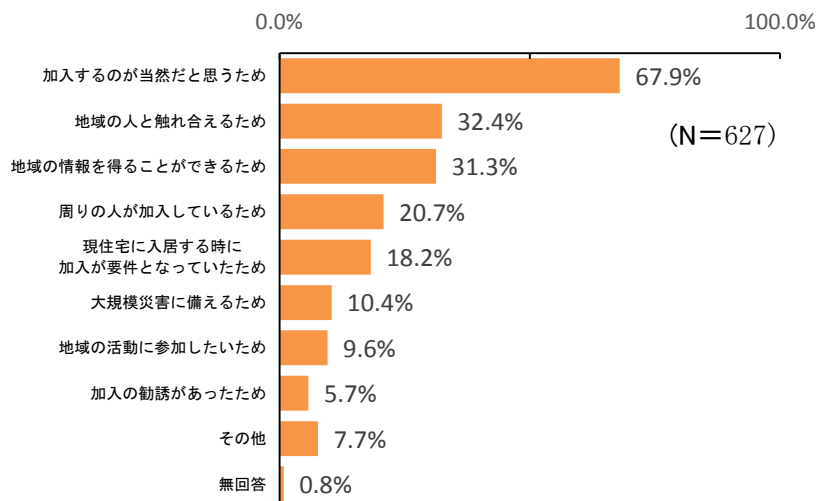
< 自治会加入の有無 > ～ 年齢別・住まいの形態別 ～



30代以下の年齢層、また、賃貸マンション・アパート、分譲マンションの住民に対する加入促進をどのように進めるかが課題である。

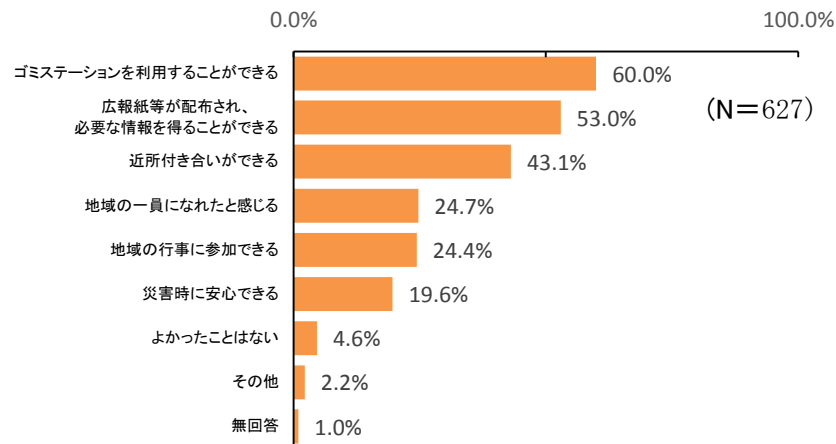
② 自治会に加入した理由

「加入するのが当然だと思うため」が最も高く67.9%であり、義務的に加入している割合が高いことが分かる。



③ 加入して良かったと思うこと

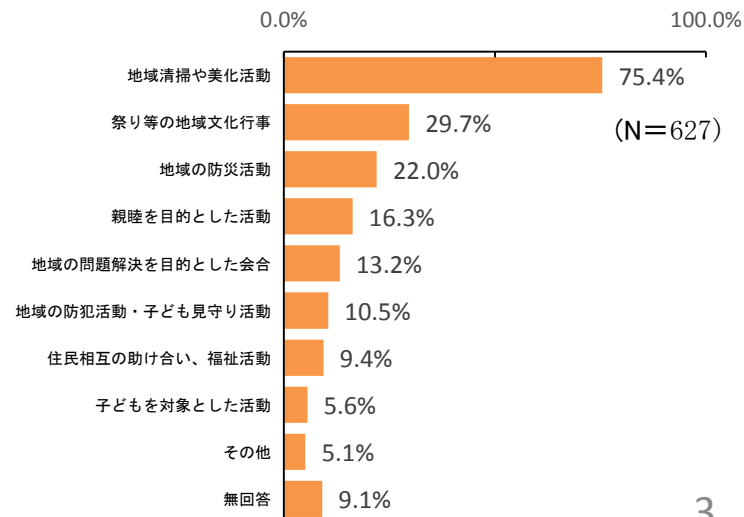
「ゴミステーションを利用することができる」(60.0%)が最も高く、次いで「広報紙等が配布され、必要な情報を得ることができる」(53.0%)、「近所付き合いができる」(43.1%)となっている。



④ 参加した活動

「地域清掃や美化活動」が最も多く75.4%、次いで「祭り等の地域文化行事」が29.7%である。

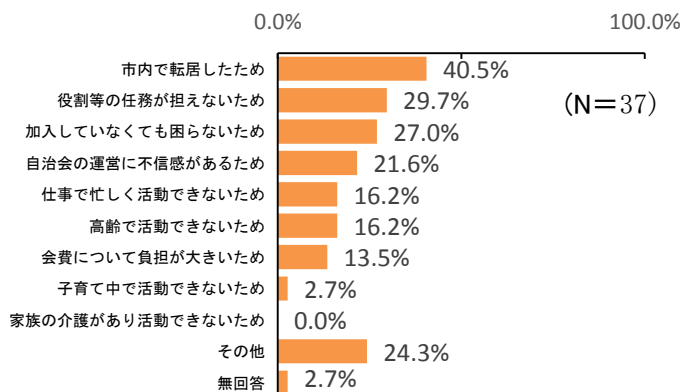
生活に直結している活動、昔から継承してきた地域文化活動は行っているが、「子どもを対象とした活動」(5.6%)や「住民相互の助け合い、福祉活動」(9.4%)等地域課題を解決するような積極的な活動を行う割合は低い。



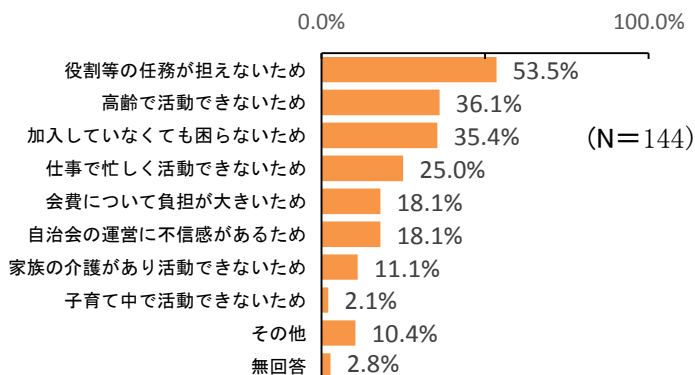
(2) 自治会未加入の理由・課題

① 自治会を退会した理由(退会者)

「市内で転居したため」(40.5%)が最も高く、次いで「役割等の任務が担えないため」(29.7%)、「加入していても困らないため」(27.0%)となっている。

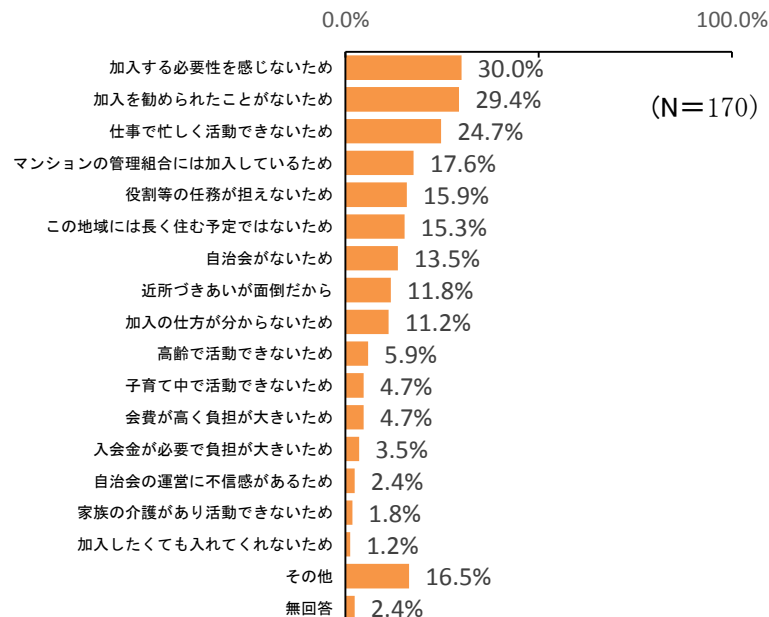


③ 自治会を退会しようと思った理由(加入者)



② 自治会に加入していない理由(未加入者)

「加入する必要性を感じないため」(30.0%)、が最も高く、次いで「加入を勧められたことがないため」(29.4%)となっている。



「加入している」人のうち、退会したいと思った理由としては、「役割等の任務が担えないため」(53.5%)が最も高く、次いで「高齢で活動できないため」(36.1%)が高くなっている。

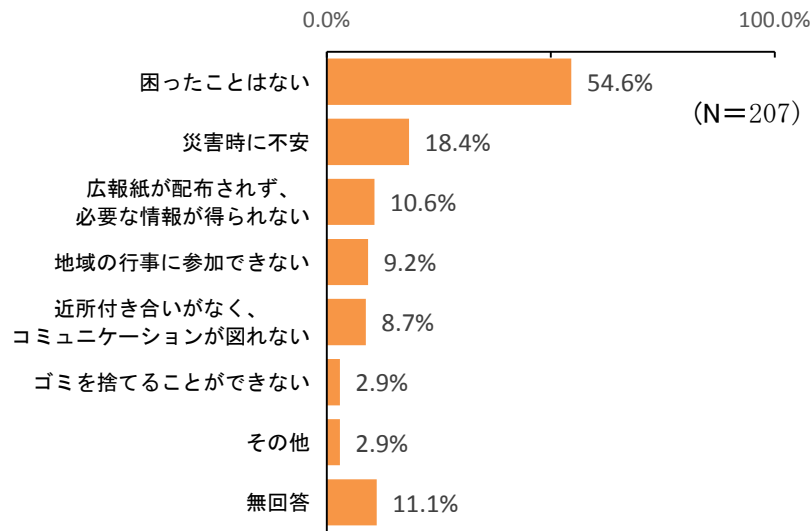
また「仕事で忙しく活動できないため」も25.0%となっており、仕事や高齢が要因で役割等の任務が担えない現状があることが分かる。また、「加入していても困らないため」も35.4%と3番目に高い。

退会した理由、加入していない理由・退会したい理由の共通点としては、「加入する必要性を感じない(加入していても困らない)」割合がいずれも高くなっている。

④ 自治会に加入していなくて困っていること

(退会者・未加入者)

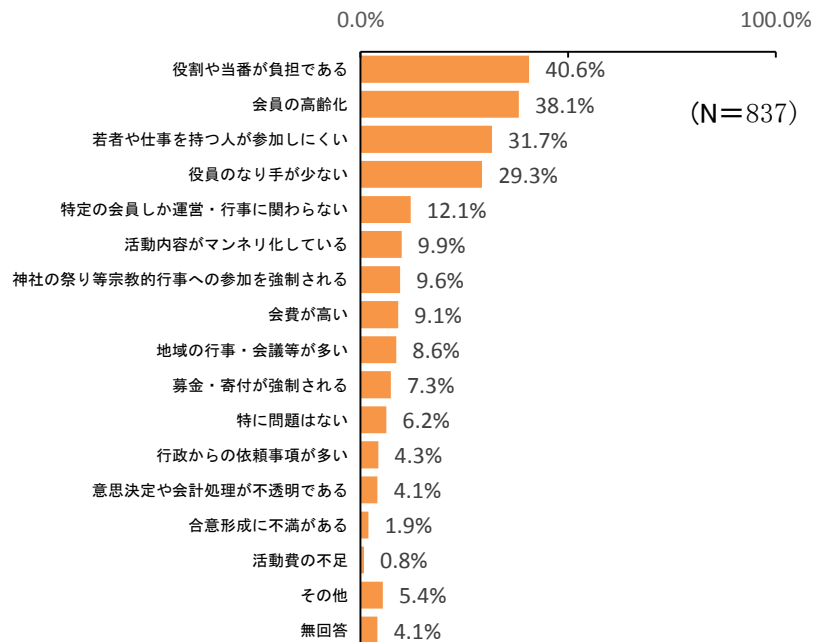
「困ったことはない」が54.6%と最も高く、次いで「災害時に不安」(18.4%)が高くなっている。



⑤ 自治会活動の課題

(加入者・退会者・未加入者)

「役割や当番が負担である」(40.6%)が最も高く、次いで「会員の高齢化」(38.1%)、「若者や仕事を持つ人が参加しにくい」(31.7%)となっている。



退会を抑制するためには、自治会の必要性をどのように感じてもらうのが最優先すべき課題であり、そのうえで活動を行う上での役割等の見直し、仕事をもつ人や高齢者への配慮についても検討していく必要があることが分かる。

加入を促すためには、自治会の必要性をどのように感じてもらうのか、自治会活動の情報発信が課題であることが分かる。

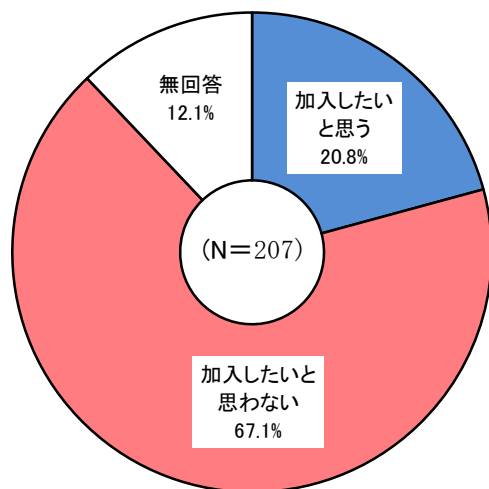
また、自治会に加入していなくて困っていることに、「災害時に不安」が2番目に高く、必要性をどのように感じてもらうかを考える上で、注目できる項目である。

(3) 退会者・未加入者へのアプローチ

① きっかけがあれば自治会に加入したいか

(退会者・未加入者)

きっかけがあれば自治会に加入したいかについては、「加入したいと思う」が20.8%であり、「加入したいと思わない」(67.1%)より割合は低い、約2割が加入の意向を持っている。



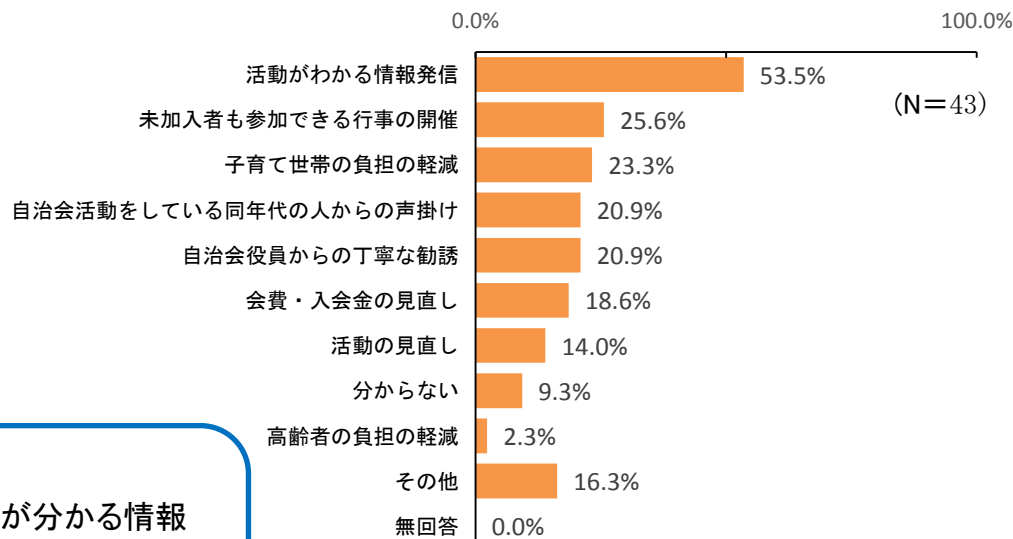
自治会活動について退会者・未加入者へ活動が分かる情報発信を行っていくことが課題である。

また、住まいの形態によって、希望する勧誘方法が異なる。

② 自治会加入につながるきっかけ

「活動が分かる情報発信」(53.5%)が最も高くなっている。次いで「未加入者も参加できる行事の開催」(25.6%)、「子育て世帯の負担の軽減」(23.3%)となっている。

住まいの形態別では、『持ち家』は「同年代の人からの声掛け」(30.8%)が最も高く、『分譲マンション』、『賃貸マンション・アパート』では「活動が分かる情報発信」が高い。

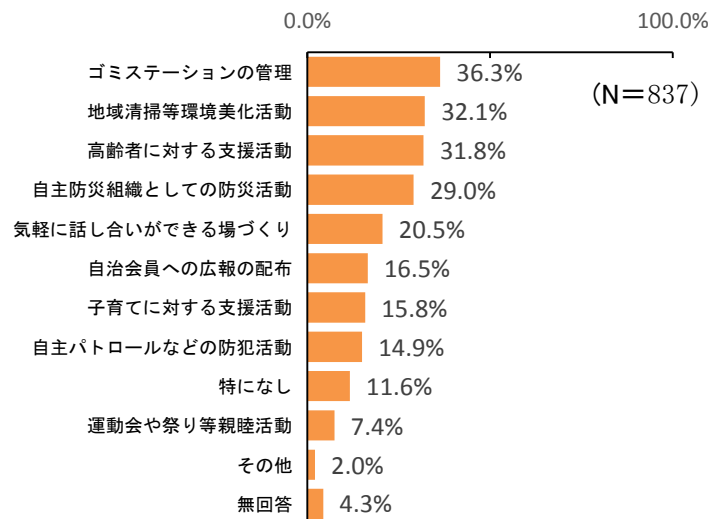


(4) 必要と思う自治会活動

必要と思う自治会活動としては、「ゴミステーションの管理」(36.3%)が最も高く、次いで「地域清掃等環境美化活動」(32.1%)が高い。

年齢別では、『30歳～39歳』は「子育てに対する支援活動」(37.1%)が最も高く、『60歳～69歳』は「地域清掃等環境美化活動」(36.4%)が最も高い。それ以外の年齢層では、「ゴミステーションの管理」が最も高い。

また、住まいの形態別では、『持ち家』、『借家(一戸建)』では、「ゴミステーションの管理」が最も高く、『分譲マンション』、『賃貸マンション・アパート』では、「自主防災組織としての防災活動」が最も高い。



< 自治会が行う活動として必要な活動 > ～ 年齢別・住まいの形態別 ～ (%)

	回答者数(人)	1 自主パトロールなど の防災活動	2 自主防災組織 としての防災活動	3 高齢者に対する 支援活動	4 子育てに対する 支援活動	5 地域清掃等 環境美化活動	6 運動会や祭り等 親睦活動	7 自治会員への 広報の配布	8 「ゴミステーション」 の管理	9 気軽に話し合いが できる場づくり	10 特になし	11 その他	無回答
20～29歳	12	8.3	16.7	25.0	33.3	16.7	8.3	8.3	41.7	33.3	8.3	—	—
30～39歳	70	22.9	32.9	20.0	37.1	25.7	10.0	1.4	24.3	14.3	11.4	4.3	1.4
40～49歳	128	20.3	29.7	21.9	25.8	25.8	11.7	14.1	35.2	19.5	14.8	3.1	1.6
50～59歳	99	10.1	31.3	29.3	10.1	24.2	9.1	12.1	40.4	19.2	19.2	1.0	2.0
60～69歳	198	14.1	30.8	33.8	12.6	36.4	5.1	16.7	35.9	21.7	10.1	2.5	3.5
70歳以上	289	13.1	26.6	39.8	10.0	38.1	6.2	23.5	40.1	23.2	7.6	1.4	5.9
持ち家	575	13.0	27.0	33.7	13.7	34.4	7.7	19.7	41.0	22.1	10.3	1.9	3.5
借家(一戸建)	24	12.5	29.2	33.3	8.3	33.3	4.2	16.7	41.7	12.5	12.5	—	12.5
分譲マンション	69	21.7	44.9	24.6	23.2	24.6	7.2	10.1	18.8	21.7	10.1	1.4	2.9
賃貸マンション・ア パート	98	21.4	31.6	31.6	23.5	25.5	9.2	4.1	23.5	18.4	20.4	3.1	2.0
社宅・寮	11	27.3	36.4	—	36.4	36.4	—	—	36.4	27.3	9.1	—	9.1
その他	20	10.0	15.0	25.0	10.0	30.0	5.0	25.0	35.0	10.0	15.0	5.0	10.0

年代、住まいの形態によって、必要と思う活動が異なり、若い年代へのアプローチを考えると、**子育てをキーワードとした活動**、また、マンション・アパートへのアプローチを考えるうえでは**自主防災組織としての防災活動**がキーワードとなることが分かる。

< 自治会が行う活動として必要な活動 > ～ 加入者・退会者・未加入者別 ～ (%)

	回答者数(人)	1 自主パトロールなどの防犯活動	2 自主防災組織としての防災活動	3 高齢者に対する支援活動	4 子育てに対する支援活動	5 地域清掃等環境美化活動	6 運動会や祭り等親睦活動	7 自治会員への広報の配布	8 「ミニスーパー」の管理	9 気軽に話し合いができる場づくり	10 特になし	11 その他	無回答
加入者	627	13.6	27.9	33.5	13.6	36.8	7.3	20.6	42.1	20.4	9.7	1.4	3.7
退会者	37	13.5	24.3	27.0	8.1	8.1	8.1	8.1	13.5	27.0	16.2	5.4	13.5
未加入者	170	20.6	34.7	27.1	25.9	20.6	7.6	3.5	20.6	20.0	17.1	3.5	3.5

加入者・退会者・未加入者別では、『加入者』は、「ゴミステーションの管理」が最も高く、次いで「地域清掃等環境美化活動」となっている。

『退会者』では、「高齢者に対する支援活動」、「気軽に話し合いができる場づくり」が最も高く、次いで「自主防災組織としての防災活動」である。

『未加入者』では、「自主防災組織としての防災活動」が最も高く、次いで「高齢者に対する支援活動」となっている。

『加入者』と『退会者』『未加入者』が必要とする活動が異なることが分かる。

『退会者』『未加入者』の必要とする活動の共通点として、「**高齢者に対する支援活動**」、「**自主防災組織としての防災活動**」があげられる。

自治会の必要性をどのように感じてもらうかを考える上で、**自治会活動を改めて見直すこと**は課題であるといえる。

(5) 自治会の今後のあり方

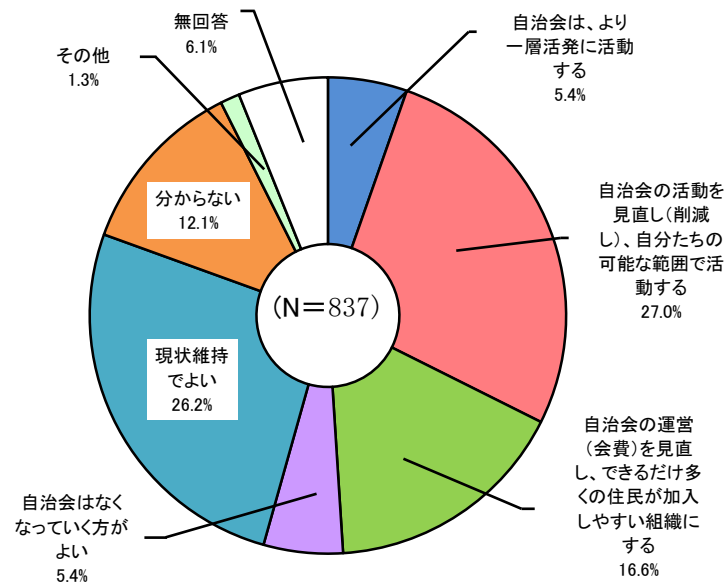
自治会は今後どのようになればよいかについて、「自治会はなくなった方がよい」と回答した割合は、最も低く5.4%である。

しかし、「自治会はより一層活発に活動する」も最も低く5.4%である。

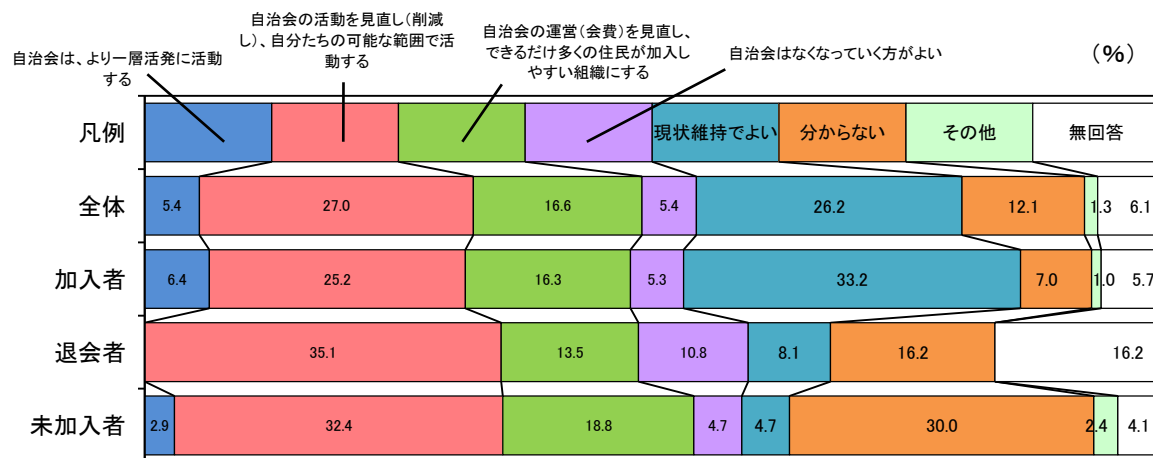
また、最も高いのは、「自治会の活動を見直し(削減し)、自分たちの可能な範囲で活動する」(27.0%)、次いで「現状維持でよい」(26.2%)である。

自治会の存続を希望しない人は5%程度にとどまる。
しかし、自治会活動を見直す必要性を感じ、可能な範囲で活動することを希望する人、また現状でよいと考える人の割合が高く、より活発に活動すると考える割合は低い。

＜ 自治会は今後どのようになればよいか ＞



＜ 自治会は今後どのようになればよいか ＞ ～ 加入者・退会者・未加入者別 ～



加入者・退会者・未加入者別では、『加入者』は、「現状維持でよい」が最も高く、『退会者』、『未加入者』では「自治会の活動を見直し(削減し)、自分たちの可能な範囲で活動する」が最も高い。

『退会者』、『未加入者』は、現状維持ではなく、**見直しを行い可能な範囲で活動することを希望している割合が高い。**